

令和3年8月1日

於：ヒルトン福岡シーホーク(アルゴス)

「世界メシア教 祖霊大祭」教主様お言葉

皆様、本日は、「世界メシア教 祖霊大祭」おめでとうございます。

本日の祭典行事につきましては、「ヒルトン福岡シーホーク」の皆様より、格別のご理解とご協力、また、数々のご配慮をいただきまして、開催させていただくことができました。ここに、「ヒルトン福岡シーホーク」の皆様に、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

明主様は、「現在、生きている人間は、自分一個の存在でなくて、祖先の繋りで、祖先の延長である事を知らなくてはならない。又言い換えれば、無数の祖先の総合が、個体たる自分である」とお述べになりました。

明主様は、私どもが「祖先の延長である事」、それを「知らなくてはならない」大切なことである旨、お説きになっています。

私どもが「祖先の延長である」ということは、先祖の方々と私どもとは、途切れることなく一^{ひと}続きに続いているということでもあります。

私どもは、父や母を始め、先祖代々にわたって伝達された人類の遺伝情報のすべてを受け継ぎ、それらを集約した存在であるということでもあります。

先祖の方々は、私どもと決して切り離すことのできない存在なのです。

先祖の方々も、私どもも、神の子たるメシアという唯一の御名に結ばれた、主神の一つ^{からだ}体なのです。

先祖の方々は、私どもと一体の存在として、私どもの中で今も生きておられます。

私どもの全身の細胞の中で、私どもの意識の中で生きておられます。

しかしながら、私どもは、先祖の方々の姿形を現在見ることができないために、先祖の方々を、死後の世界という、この世とは別の世界、自分とは別の世界にいると信じ、その世界に閉じ込めていたのかもしれませんが。

その死後の世界を、私どもは霊界と呼んでいたのではないのでしょうか。

私どもは、主神の永遠の^{いのち}生命を自分の^{いのち}生命とするという罪を犯し、目に見える^{いのち}生命、

限りある生命^{いのち}だけが生命^{いのち}であると思ひ込んでいました。

目に見える息、限りある息だけが息であると思ひ込んでいました。

そのために私どもは、永遠の生命^{いのち}から遠ざかり、死という世界を造り出し、死^{とら}に囚われたものになってしまいました。

主神は、創造されたすべてを隈^{くま}なく、ご自身の生き生きとした永遠の生命^{いのち}と息で満たしておられるのですから、主神にとって死の世界など、どこにも存在しないはずであります。

死の世界を造ったのは、私ども人間だったのではないのでしょうか。

その死の世界を造った私どもの罪^{あがな}を贖い、赦し、私どもを死の世界から解放し、永遠の生命^{いのち}に甦らせるために、主神はイエスを世にお遣わしく下さいました。

イエスは、私どもに代わって十字架にかかり、私どもに代わって罪の赦しを主神に乞い願ひ、無知な私どもを主神にとりなすために、自らの魂と血汐を主神に捧げました。

主神は、その血汐を贖い^{おん}の御血汐とされることによって、先祖の方々ともども、私どもを赦して下さっただけでなく、私ども全人類に救いをもたらすために、イエスを死の世界から甦らせ、永遠の生命^{いのち}を授け、神の子たるキリスト、すなわち、メシアであることを証し立てられました。

主神は、イエスを甦らせることによって、死に囚われていた私どもを解放して下さったのです。私どもを永遠の生命^{いのち}に至るものとして下さったのです。

私どもも、メシアと名付けられた神の子として新しく生まれ、永遠に生きるものとなるという主神との約束を果たすことができるようにして下さったのです。

私どもは、先祖の方々の良い面だけではなく、マイナス面を受け継いでいると感じておりますが、多くの先祖の方々が積み重ねてきた、主神に対する罪と、その罪に基づくいろいろなマイナス面は、イエス・キリストによって捧げられた贖い^{おん}の御血汐によって、分け隔てなく、主神の赦しを賜ったのではないのでしょうか。

私どもがマイナス面を感じさせていただくということは、そのことに赦しを賜ったことを私どもが認め、それを主神の救いのみ業の栄光として、主神がお受け取りになるよう委ねさせていただく役目が私どもにあるからではないのでしょうか。

赦しを賜ったということは、主神が今までの私ども人類の生き方、考え方に終止符を打ち、そのすべてを新しいものに造り替え、一人ひとりを神の子とするという、全

く新しい段階の創造の営みの中に迎え入れてくださったということでもあります。

この創造の営みの大転換は、今から約二千年前に成し遂げられたのであります。

この大転換は、万物を始め、地球上に存在するすべてのもののための、否、主神ご自身のためのみ業でありますから、私どもは、このみ業を単に二千年前の過去の出来事として知らされた、ということでは終わらせてはならないと思います。

永遠に生きておられる主神は、一瞬たりとも途切れることのない創造のみ業を、私どもの中でお進めになっておられます。

過去と未来のすべてを、私ども一人ひとりが持つ“今”という思いの中に結んで、み業を成し遂げてくださっています。

明主様は、この二千年前の大転換を過去の出来事に^{とど}留めることなく、「夜昼転換」という^{みことば}聖言をもって確認され、ご自身に担わされた罪を^み御前にお認めになることによつて、その罪から解放されたことを確信されました。

そして、イエスによる贖いを全身にお受けになり、罪赦されたものとなられて、神の子たるメシアとして新しくお生まれになり、永遠に生きるものとなりました。

私どもも、明主様に倣わせていただいて、まず、自分の中にある罪を認める必要があると思います。

自分の中にある罪を認めることなくして、どうして主神の赦しを賜うことができるのでしょうか。

そして、明主様のように、イエスによる贖いを信じ、“今、贖いの御血汐をすべてのもので共にお受けいたします”と主神に申し上げることができれば、主神は、私どもと、そして、私どもと一体である先祖の方々を^{ことごと}悉く罪赦されたものと見なして下さり、先祖の方々ともども、私どもを新しく生まれる道を歩むものと見なして下さるのではないのでしょうか。

このあと、本日の祭典行事の最後に、皆様とご一緒に、還魂をさせていただきます。

多くの先祖の方々は、光と^{いのち}生命の源である天国に帰りたい帰りたいと、私どもの中で^{しき}頻りに訴えています。

私どもは、そうした先祖の方々の訴えを主神にとりなすために世に遣わされ、メシアの御名を知らされているのです。

私どもは、父母先祖を始め、全人類の先祖の方々が私どもの中で、私どもと共に生きておられることを認め、“メシアの御名にあつて、多くの先祖の方々と共に、贖わ

れ、赦されたものとして、わたしの意識の中心に存在する天国に立ち返らせていただきますので、御心を成し遂げてくださいますように、と主神に申し上げます。

そして、すべてを甦らせ、すべてを新しいものに造り替えるという創造のみ業に、先祖の方々と共に、吐く息吸う息、吸う息吐く息のうちにお仕えすることを、心に定めさせていただきます。

そのようにお仕えすることを許してくださっている主神に、すべての栄光と権威と恵みを、メシアの御名にあって帰させていただきます。

ありがとうございました。

以 上